

対応分類		A：計画に反映させるもの C：今後、計画に基づく個別施策の実施により対応が可能となるもの B：意見の趣旨が既に計画又は施策に反映されているもの D：今後検討するものまたは参考意見とするもの				
No.	ページ	該当箇所（項目など）	意見等	分類	課名	対応
1		「行政の主な取組」	R8予算編成の議論の中で実施しない、あるいは予算的に実施不可能となる可能性について考慮するようお願いいたします。 計画に様々な事業を位置づけてしまい、計画に縛られて実施しなければならない状況にならないよう考慮するようお願いいたします。	A	財政課	ご指摘を踏まえ、関係各課にも最終確認します。
2	61	〔分野5〕の分野別目標「お酒のリスクとわたしの適量を知ろう」	「適量」が「ちょうどよい分量」を意味することから、「適量の飲酒は健康を害さない」という誤った認識の拡散につながりかねないのではないかと懸念を感じます。 厚労省のガイドラインにおいても「適量」という表現は使用されていないように思います。 （厚生労働省が令和6年2月に「健康に配慮した飲酒に関するガイドライン」において、少量でも発症リスクが上がる病気があることを示しており、多くのメディアからも「最新の科学的見解」として同内容が発信されています。本プランにおいても、少量でもリスクがあることを記載することで、一人でも多くの市民の命や健康が守られるような行動変容につながる可能性があるものと考えます）	A	総務課	お酒の目標設定の背景として、国では、伝統と文化が国民の生活に深く浸透していることもあり、実行性のある目標設定を行っているとのことで、市もその方向に合わせています。「適量」の表現については誤解のないように、アルコールのリスクを理解した上で、自分にあった飲酒量を決めて、健康に配慮した飲酒を心がけるよう、説明文に追記します。（分野5 目標の下。お酒は生活に身近なものですが、一方で少量でも健康を害するリスクを伴います。飲酒をする場合には、お酒のデメリットと自身の健康に配慮した量をよく知しましょう。）
3	68	図5	グラフ下に「はい」は「水色」で示されている旨の表記がある一方で、「高年期」のグラフが「薄い緑色」とされています。強調する意図で行われていると推察しますが、適切ではないと感じました。（他ページにも、同様の箇所が複数見受けられます）	A	総務課	グラフの色分けについてはP28記載のとおり、こども：黄色、青・壮年期：水色、高年期：緑、20歳以上：ピンクとしています。凡例はシンプルに一種類としていましたが、すべての色の凡例を入れるようにします。
4	4	健康づくり・食育と持続可能な開発目標（SDGs）	SDGsは令和12年（2030年）を期限とするターゲットになりますので、照会計画の期間（令和19年（2037年）は目標期間外になります。現時点では、2031年度以降の国際目標については示されていませんが、新たな目標が示された場合に対応できる「健康づくり・職員と国際目標」など弾力性のある表題の方が良いかと思えます。	A	企画課	ご指摘の点を踏まえ、表題等を一部修正します。 （「健康づくり・食育と国際目標」、文中に（取組期間は2016～2030年の15年間）を追記）
5	6	鎌倉市の人口 図表2-1～2-3	数値が新たな総合計画の記載と一致していません。総合計画の人口推計は、社人研を準拠したものであり、社人研と完全一致はしないため、鎌倉市の計画として整合と取るため、企画課・政策創造課と調整をお願いします。	A	企画課	総合計画の数値に合わせます。
6	8	合計特殊出生率の推移 図表2-5	神奈川県グラフ値が新たな総合計画の記載と一致していません。企画課・政策創造課と調整をお願いします。	A	企画課	総合計画の数値に合わせます。
7	25	2 目標	本計画は「鎌倉ビジョン2034（基本構想）」の下位計画とありますが、本計画の上位計画は「鎌倉ミライ共創プラン2030（基本計画）」であるため、修正願います。	A	企画課	ご指摘の点を修正します。
8	31	「行政の主な取組」 【目的2】子どもが健やかに育つための環境を整えます。 15入園児の健康診断	保育課を所管にするならば「保育所等での健康診断」の方が適切かと。入園児について、幼稚園児もさしているのであったらこども支援課も追記して欲しいです。	A	保育課	こども支援課を追記します。
9	69	「行政の主な取組」 5 入園児の健康診断	保育課を所管にするならば「保育所等での健康診断」の方が適切かと。入園児について、幼稚園児もさしているのであったらこども支援課も追記して欲しいです。	A	保育課	こども支援課を追記します。
10	2	（2）策定の趣旨	句点抜けがあります。 （以下「本計画」という）→（以下「本計画」という。）	A	市街地整備課	ご指摘の点を修正します。
11	2	（2）策定の趣旨	計画書であまりしない表現かと思われます。 支援してまいります。→支援します。or支援していきます。	A	市街地整備課	ご提案のとおり修正します。
12	3	2 計画の位置づけ	「かながわ健康プラン21（第3次）」、「食みらい かながわプラン2023」についても国が定めたように読めるので、以下のとおり追記してはいかがでしょうか？ 案：国の定める「健康日本21（第三次）」、「第4次食育推進基本計画」、並びに神奈川県の定める「かながわ健康プラン21（第3次）」、「食みらい かながわプラン2023」に即した計画です。	A	市街地整備課	ご提案のとおり修正します。
13	17	ウ 分野別評価	件数は表を見ればわかるので、説明を入れるのであれば特徴（順番等）を説明した方がよいのではないのでしょうか。 例：全98項目のうち、目標達成◎は30項目、改善傾向○は10項目、維持△が21項目、悪化×が31項目となりました。項目のうち、もっとも目標を達成したのは「歯」、次点で「お酒、たばこ」でした。逆に達成数が少なかったのは「食生活・栄養」と「コミュニケーション」でした。 また、もっとも悪化したのは「こころ・休養」、次点で「健康管理」でした。逆に悪化が少なかったのは、「歯」と「お酒、たばこ」で、目標の達成数が多い項目でした。具体的な内容は、次ページ以降のとおりです。等	A	市街地整備課	ご指摘を踏まえ、修正の検討をします。
14	32 89	ページ下部★欄	語尾は「～異なります。」に統一してはいかがでしょうか。	A	市街地整備課	ご提案のとおり修正します。
15	34	ローレル指数とBMIの計算方法	間違っていないですか？ 【ローレル指数＝体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)÷身長(m)×10】 →【ローレル指数＝体重(kg)÷（身長(m)×身長(m)×身長(m)）×10】 【BMI＝体重（kg）÷身長(m)÷身長(m)】→【BMI＝体重（kg）÷（身長(m)×身長(m)）】	B	市街地整備課	三乗や二乗で記載するのが一般的ですが、見た人がすぐに電卓等で計算できるよう平易な計算式で提示しています。計算結果は同じです。
16	34 35	コラム、分析と課題	コラムでは「骨粗しょう症」、分析と課題では「骨粗鬆症」と表記していますがそろえる必要はないでしょうか。	A	市街地整備課	「骨粗しょう症」に揃えます。
17		全体	言葉の定義について記載がないのですが、健診と検診の違いなどの説明はなくてよいでしょうか。	A	市街地整備課	コラム1に用語の説明を追記します。
18	3	「2計画の位置づけ」図下部「鎌倉市」>「鎌倉ビジョン2034」中の「関連計画」	2034年時点までに高齢者保健福祉計画は複数の期をまたぐので「9期」に限定しない方がよいのではないかと。	A	介護保険課	ご指摘の点を修正します。

No.	ページ	該当箇所（項目など）	意見等	分類	課名	対応
19		「第2章 鎌倉市の現状と課題」	本章では統計を用いた現状について触れてはいるが、課題への言及がないので、課題を追記した方がよいのではないか（タイトルを修正するという方法もあるが、それだと単に「資料編」になってしまうように思われます）。	A	介護保険課	第2章は「1 統計からみる現状」と「2 これまでの取組みの成果」で構成しており、課題については2で触れています。わかりやすいよう、2のタイトルを「これまでの取組みの成果と課題」とします。
20	14 15	「第2章 鎌倉市の現状と課題」>「(6)介護の状況」>「傾向やポイント」	(1) ここに記載されている内容は各図表（2-16～18）が示す内容を文字化したもの（現状または傾向）になっているが、そこから演繹的に導き出される課題に言及していないため、なにが課題で「ポイント」なのか読み取れない。 例えば、要介護認定者数・認定率も漸増しているというデータについては母集団である全人口の推移と比較して示していないので、人口増に対して緩やかな増なのか、人口減に反比例して要介護認定者数や認定率が増えているのか、市民はこのデータだけから介護の状況を把握することは難しいように感じる。	B	介護保険課	ポイントは、P14記載のとおりです。 高齢者人口に対する認定率を記載することで市の傾向を示していますが、原課として記載すべきとするデータがありましたら、具体的にご指定ください。
21	14 15	「第2章 鎌倉市の現状と課題」>「(6)介護の状況」>「傾向やポイント」	(2) 要支援1・2の軽度層が増加傾向にあるとするが、給付費及び介護認定率の増加傾向にあるというデータと一見すると相反するよう見える内容が併記されているように誤解されかねない。また、要介護認定者の有病状況のデータが引用されている意図が分かりにくい。 例えば、増加しつつある介護給付費の背景として、要介護認定者の有病状況がADLに及ぼす影響などを分析した結果に言及するなど、なぜ本計画が必要か分かりやすくしないとデータを掲載する意義が薄いと感じる。	B	介護保険課	要支援1・2の増加傾向がその他のデータと相反するという認識はありません。 有病状況を示すことにより要介護に陥りやすい方の状況を示していますが、原課として記載すべきとするデータがありましたら、具体的にご指定ください。